

2021 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題
一般選抜「一般入学試験 2 期」

入試問題提出様式

試験科目：「小論文」

日 程：2020 年 3 月 2 日 (火)

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

芸術 学部 芸術 学科 音楽 領域

対象コース：ウインドアカデミー、ワールドミュージック・カルチャー、サウンドメディア・
コンポジション、ミュージックエンターテインメント・ディレクション、音楽総合
コース

[課題]

音楽を聴くには、「ライブやコンサートへ行く」「CD やレコードを購入する」「デジタル販売でファイルを購入する」「サブスクリプション」「YouTube のような動画配信サイトで見ると」など、様々な方法があります。

今後、音楽は主にどのような形で聴かれていくのでしょうか。あなたの意見を述べなさい。

[出題の意図等]

ある「音楽の聴き方」に関する調査によれば、約 6 割の人が、主な音楽の聴き方として「無料の動画配信サイトや無料の音楽配信サイトで聴く」と回答したという。

大学で音楽を学ぼうとする者として、「音楽の聴き方 (聴かれ方)」にどのような意識を持っているか問いたい。

模範解答

日本においては、CDのアルバムが約3,000円、CDのシングルやサブスクリプションは約1,000円、デジタル販売は1曲約250円である。CDやレコードは物として目に見えるものが存在し、自分で所有しているという感覚があるが、デジタル販売で購入したものは、パソコンやスマートフォンの中にファイルとして存在するだけであるから、所有している実感あまりない。また、サブスクリプションは契約をやめると聴けなくなってしまうため、音楽を所有している感覚は当然ない。音楽を所有するということにこだわりがなく、とにかく音楽を聴ければいい、次々と新しい音楽に触れたい、という人たちにとってみれば、サブスクリプションが最適となる。

私は現在、主にサブスクリプションで音楽を聴いている。好きなアーティストの曲や、どこかで耳にして気に入った作品のほとんどがサブスクリプションで聴けてしまうからだ。好きなアーティストのライブを観に行くこともあるが、普段の音楽の聴き方はほとんど「ながら」で、何かしら音楽が流れていれば良かったり、新しい音楽に出会いたいという欲求もあったりするため、私にはサブスクリプションがいちばん合っている。以前はCDを買うこともあったが、今ではまったく買わなくなった。デジタル販売で音楽を購入したこともない。作品によっては、YouTubeでミュージックビデオが配信されているものもあり、それを観れば満足できてしまうこともある。

私たちの世代では「音楽を買う」という意識は低いと感じる。友人たちから「CDを買った」とか「デジタル販売で買った」という話はほとんど聞かない。すでにCDは、かつてのレコードと同じように愛好家向けという印象を持つ。価格設定をみても、サブスクリプションで音楽を聴かれることが主流になっていくと考えている。